

## 早稲田大学 商学部 現代文 講評

### 〔総合分析〕

|        |   |
|--------|---|
| 出題形式   | マーク・記述併用  |
| 試験時間   | 60分   |
| 特徴・その他 | 選択式問題が大部分であり、記述式は本文からの抜き書き、3単語を適切に活用させて組み合わせる問題、「宮中」の意味をあらわす語を書かせる問題であった。いかにして時間配分をうまく行うかというのが合否の分かれ目になりそう。 |

### 〔大問別講評〕

| 番号 | 出題内容            | コメント   | 難易度 |
|----|-----------------|--|-----|
| 一  | 田中登の文章          | 例年通り現古融合問題が出題された。今回は和歌についての評論であり、和歌における意味、技法、文法的事柄を聞いてきたので、少々戸惑った受験生もいると思うが、レベル的にはどれも標準的なものばかりなので、冷静に対応していけば、恐れることはない。日頃の学習の成果がそのままあらわれる良問である。   | 標準  |
| 二  | 若林幹夫『都市へのからの視線』 | 記号論、メディア論、都市論といった最新流行のテーマが出題されており、日頃からこれらについて問題意識を持っていた受験生にとっては、8割の得点を確保することは、それほど困難ではなかったであろう。設問としては、問6の(Ⅱ)、問7の2、問9が少々迷うところではある。特に問7の2はレベルが高い。しかし、これらは、文章構造を押さえた「精読」により、クリアできる。「全体のまとめ」とか、「段落ごとのまとめ」より、まずは「精読」を心がけるべきである。 | 標準  |

### 〔総合コメント〕

|  |
|--|
| <p>㊦が少々、解きにくかったが、㊧がそれほどレベルが高くなかったので、全体的にみて、例年通りのレベルであった。合格点は約7割とみてよい。㊦も㊧も、日頃の努力、問題意識がものを言うという意味では、良問の分類に入る。㊦については、指導者の力量により、得点にバラツキが出てしまうという点で、受験生にとっては、少々、酷な面があるかもしれない。</p> |
|--|